

# 天から音が

使徒言行録 2 : 1 - 2



司祭 ヨハネ 井田 泉

2013年5月19日

聖霊降臨日

主イエスの復活から 50 日目、昇天から 10 日目の日曜日、弟子たちは一つになって集まっていました。心を一つにして礼拝していたのです。そのとき突然、天から大きな音がしました。

**「突然、激しい風が吹いてくるような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた」使徒言行録 2 : 2**

宣教する教会を誕生させた聖霊降臨の出来事は、「天からの音」を共に聞く強烈な経験であったことがわかります。ではそれほどのような音だったのでしょうか。

**「激しい風が吹いてくるような音」**

ここをギリシア語原典で確かめてみると

**「激しい息（風）を運ぶ音（響き）」**

と直訳できます。天からの音は、風をはらみ、息をもたらすものでした。

息とは息吹、神の命の息です。神が最初の人、アダムを創造されたとき、人としての形は立派に整ったものの、横たわったままで動きませんでした。神は人との対話・交流を望み、アダムが生きることを願われました。

そこで神は「その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった」（創世記 2 : 7）。

また復活のイエスは、ユダヤ人たちを恐れて家の戸に鍵をかけていた弟子たちのところにおいでになり、その真ん中に立って

**「あなたがたに平和があるように」**

と言われました。

そして彼らに息を吹きかけて、

**「聖霊を受けなさい」**

と言われました（ヨハネ 20：22）。

聖霊降臨の日、天からの音は、神の命の息、復活のイエスの息吹をもたらししました。音はそれを人々の中に吹き込んで、人々を生かしたのです。

ところで福音書には、人々が天からの響きを聞いた場面があります。主イエスがお生まれになったとき、ベツレヘム郊外の野原で、羊飼いたちは天使たち（天の大軍）の合唱を聞きました。

**「いと高きところには栄光、神にあれ、**

**地には平和、御心に適う人にあれ。」ルカ 2：14**

天の大軍の賛美と祈りの合唱は力強く、またこの上なく美しいものであったに違いありません。それは羊飼いたちに天を経験させ、さらに新しい行動へと彼らを動かしたのです。「さあ、ベツレヘムへ行こう」と。

聖霊降臨の日、弟子たちは天からの音によって神の命の息を吹き込まれ、力と勇気を受けました。その響きは力強くこの上なく美しく、弟子たちに天を経験させるものでした。その音は、復活のイエスの愛を弟子たちの身体と魂に浸透させる甘美な音、かつ汚れを清める清冽な響きであったことでしょう。同時にそれは、弟子たちを鼓舞して宣教へと動かすものでした。

復活の主イエスさま、最初の教会を動かした天の音をわたしたちにも聞かせてください。あなたが約束された聖霊を求めて祈らせてください。祈るために集まる教会にしてください。天の音を聞くことを妨げる騒がしいおしゃべり、高慢、虚栄を除いてください。天の音を聞き、それを世界に運ぶわたしたちにしてください。アーメン